

\* 凛(りん)として自分のために！ \* 輪(りん)として仲間のために！ \* 鈴(りん)として社会のために！

Q

## ～3月の「りんりんの会イベント中止」のご連絡～

## 【中止するイベント】

- \* 3月14日(土) 「補整用パッド作り講習会&下着の情報交換会」(大崎市民病院)
- \* 3月25日(水) 「りんりん相談室」(大崎市図書館)

会報をご覧の皆様、いつもりんりんの会へのご参加、並びにご協力ご支援、ありがとうございます。  
最近の新型コロナウイルスの感染拡大がたいへん心配され、全国的に様々な緊急対応策が講じられている昨今です。大崎管内での発症は報告されてはませんが、安心してご参加いただくためにも、上記イベントはお休みとさせていただきます。ご予約していただいていた皆様方にはたいへん申し訳ありませんが、ご理解、ご容赦をいただきたく存じます。4月以降のイベント開催につきましては、状況に合わせながら、大崎市民病院 HP、又はりんりんの会ブログ・ツイッターなどでお知らせいたします。(直接、りんりん携帯へのお問い合わせも可能です。)

## \*「総会&amp;Dr.吉田の乳がん講座」開催について\*

【毎年4月開催予定でしたが、状況がつかめない為、今年度は5月に延期致しました。】

- 日時：2020年5月30日(土) 第1部(総会)：13:50～14:15  
第2部(講座)：14:30～16:00
  - 場所：大崎市図書館 1F 多目的ホール (古川駅前大通り4-2-1)
  - 講演：「患者さんの悩みとサバイバーシップ」 講師 吉田 龍一 先生
    - ◎ 予約不要です。どなたでも(乳がんの患者様やご家族・お友だち・医療関係者)大歓迎です。
    - ◎ 第2部『Dr.吉田の乳がん講座』から参加ご希望の方は、14時15分から受付になります。
    - ◎ 会員以外の方：患者会活動に関心のある方は、第1部(総会)13時50分から参加可能です。
- ※ 詳細は、ご案内チラシをご覧ください。(病院HP・りんりんの会ブログ掲載、病院がんサロン・外科外来で配布)

## \*「ピアサポート」・「ピアサポーター」ってご存知ですか？\*

ピアとは「仲間」のこと。サポートとは「支える・援助する」という意味です。

ピアサポートとは、**がんという病気を体験した本人やそのご家族が、新たにかんりに患された方を支える活動、仲間同士で支えあうこと**を言います。「**体験を共有し、共に考える**」ことで、**自立をサポートすることがピアサポーターの役割**でもあり、**ピア(体験者)ならではの関わり**になります。

病院内がんサロンでは、県の「ピアサポーター養成研修会」や他講座などを受講、実践体験(患者会や地域での活動など)・自己研鑽などを積み上げた「**がんピアサポーター**」が責任を持って対応します。(※現在は大崎・石巻の2か所でサポートしています。)「自分の体験を生かしたい!」「誰かのお役に立ちたい!」とお考えの方がいらっしゃると思いますが、体験と合わせて、患者様に不利益を与えないような「**コミュニケーションスキルの知識**」も必要になります。りんりんの会では、**がん患者さんやそのご家族の不安な気持ちを和らげ、責任を持って対応できる「がんピアサポーター」**が全ての患者様の身近な病院にいてくださることを願っています。

## ～りんりん会報に寄せて No.42～

### 高齢化社会

大崎市民病院 乳腺外科科長 吉田 龍一

新型コロナが流行り戦々恐々としている今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。

とにかく手洗いはこまめにしましょう。閉鎖的な空間でなければさほど感染を恐れる必要は無いと思います。感染を恐れて閉じこもってばかりいないで、ストレス解消に外の空気を吸って春を感じるのはいいことです。実は風邪よりストレスこそ万病の元です。

さて、最近は何も映画を見に行かなくなりましたが、中学生の頃、一時期毎週のように映画館に足を運んでいました。小遣いやお年玉を映画につぎ込んで、スクリーンやロードショーという月刊誌もよく買って読んでいました。そんな時、ソイレントグリーンという映画を見に行きました。

1973年公開され、50年後の2022年のアメリカが舞台の近未来を描いた映画です。主演はベン・ハーで有名なチャールトン・ヘストン。最初はストーリーがよくわかりませんでしたが、なげなしの小遣いを使って来たのだから辛抱強く見ていたら、飽きてきた頃によく話の筋がわかってきました。

人口爆発で食糧不足となり、食べ物は配給制となりました。そんな中、主人公の知り合いの老人がどこかに連れて行かれ、ベートーベンの田園交響曲が流れる中、大画面でお花畑や海を見ながら楽園に来た気分のように安楽死させられます。そして、秘密裏に工場に運ばれビスケットの原料になり、人々に食料として配給されるというストーリーだったと思います。

当時はまだ中学生でしたが、老人が大きな部屋で、幸せな面持ちのまま安楽死させられるシーンを食い入るように見た覚えがあります。歳をとったら安楽死させられビスケットになるというのが衝撃的だったようで、あれから何十年もたったのに未だに覚えています。とても考えさせられる映画だったように思います。

現実的には今から3年後にそんなことになるとは考えられませんが、このまま少子高齢化が進んでいくと現実味を帯びてくるのかも知れませんね。

医療費高騰の折り、国民皆保険の持続が困難になってくると、保健診療は85歳まで、85歳を超えたら治療は全て自費でとなりかねません。自費と言われたら病院に行かない人は増えるでしょう。そして、手遅れの状態で病院に担ぎ込まれ、高齢者は少しずつ減っていきます。

考えてみたら、医学はがん撲滅だとか長寿大国だとか、命を延ばす、死なないことを目指しているため、今のままでは高齢化はさらに進行するでしょう。平均寿命が90歳を超えても、健康寿命が延びなければ介護の期間が延長するだけです。ただ死なない、死にたくても死ねない期間が延々と続き、老人は増えるものの、少子化は労働人口の減少につながり、若者は働きづめで、日中高齢者を介護するのは困難となるでしょう。一体誰が高齢者の面倒を見るのでしょうか。そんな世の中が果たして本当に幸せなのでしょうか。

がん治療においても、最近話題になるのは高齢者に対するがん治療です。がん治療には標準治療というものが確立されていますが、高齢者には必ずしも標準治療が当てはめられないことがあります。じゃあ、どう治療したらいいかと思案するのですが、治療後の生活に関しては無頓着です。極論を言えば、病気は治ったけど寝たきり、要介護となり家族の負担が増えた、人に迷惑ばかりかけて生きてる意味が無い、早く死にたいと思う人が少なくないのではないのでしょうか。何のための医療なのか。そんな人や家族に、ビスケットになって世の中のためになれと悪魔のささやきがあったら・・・

ソイレントグリーンの中の医療は、病気を治してヒトを長生きさせビスケットにすることで食糧不足を補うのが目的とも言え、要は食料生産の一部となっていると思います。今から50年後は本当にそうなっているかも知れません。我々医療者はどうすればビスケットの生産者にならないようにできるのでしょうか。

●連絡窓口：大崎市民病院 地域医療連携室 がんサロン ☎ 0229-23-3311